

Q 保健所等におけるアルコール健康教育の状況等

厚生労働省「令和3年度地域保健・健康増進事業報告の概況」（令和5年3月30日）より抜粋
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/c-hoken/21/dl/R03gaikyo.pdf>

○精神保健福祉

アルコールに係る令和3年度の延べ相談人数は29,109人（6ページ）

○集団健康教育

生活習慣病に係る一般教育について、令和3年度は延べ616,571人が参加（13ページ）
なお、アルコールに係る健康教育に係る統計データは確認できず。

Q 保健所等の情報

以下のとおり保健所等を所管する部門において、代表連絡先等の一覧を掲示しており、相談等に当たってはそれらをご参照いただきたい。

○厚生労働省HP（保健所管轄区域案内）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/hokenjo/index.html

○東京都保健医療局HP（保健所・保健センター）

<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shisetsu/hc.html>

○福ナビ とうきょう福祉ナビゲーション（公益財団法人東京都福祉保健財団）

<https://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/eip/10kyotuu/hokenjo.html>

Q 生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている女性の割合が増加している要因（関連 資料2-2及び2-3）

厚生労働科学研究成果データベースから引用

喫煙、飲酒等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究（2022年度）

本研究で、飲みやすいテイスト、特別な気分や雰囲気を作るなどのお酒のもつイメージ、一緒にお酒を飲む相手の存在は、わが国の女性の飲酒につながりやすいことが推察された。一方、女性の不適切な飲酒者では男性の飲酒パターンに近い結果であった。女性の不適切な飲酒を防止するための対策として、飲酒に対するポジティブなイメージの転換、健康診断や妊娠～授乳期の飲酒スクリーニングと保健指導が考えられた。

喫煙、飲酒等生活習慣の実態把握及び生活習慣の改善に向けた研究（2021年度）

わが国の女性の飲酒行動に関するインタビュー調査では、多量飲酒のある女性にインタビュー調査を行い、女性の多量飲酒につながる要因として、「飲酒・酩酊が目的」、「手段的飲酒」、「ライフイベント・生活の変化」、「ストレス」、「環境要因」、「習慣的」の6つを抽出した。

Q 生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている女性のうち、どの年代が多いのか。（関連 資料2-3）

・令和元年国民健康・栄養調査報告によると、女性の場合、一番多いのが50代であり、次に40代が多くなっている。なお、男性の場合、40代が一番多い。
また、同調査では、生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている女性の割合は、平成22年に7.5%だったが、令和元年には9.1%になっている。

・平成30年国民健康・栄養調査においても、女性の場合、一番多いのが50代であり、次に40代が多くなっている。なお、男性の場合、50代が一番多い。

Q 潜在的な患者数

厚労省HPより

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/201904_00010.html

「患者数は外来9万5,579人、入院2万5,606人（2016年）で、潜在的なアルコール依存症者数は約57万人といわれています。」との推計有。（出典：広報誌『厚生労働』2019年5月号）

➡結果からみると、患者数の約5倍の潜在的な患者がいるものと推計している模様。